日刊 動労千葉
1988.10.18
No.2909
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

10・23 三里塚へ 戦時徴用への道＝土地収用法

10/23総結集の力で 収用委員会再開を阻止しよう

政府・空港公団は、「片肺空港」「欠陥空港」からの脱却と称して、現在使用しているA滑走路に加えて、B・C滑走路をつくる二期工事を進めている。だが、このB・C滑走路予定地内には加藤清さん、市東東市さん、萩原作治さん一家などが親子三代、生活し、営農を行っている。まさに、B・C滑走路をつくるということは、これら農民を機動隊暴力で追い出し、農地と家屋を破壊することなしには成立しない。

政府・公団は「九〇年完成」の史上命令のもとに、これまでありとあらゆる手段を使い反対同盟破壊攻撃を行ってきた。だが敵をして「九十年は無理」と敗北宣言を出さざるを得ないほどの大勝利を反対同盟はかちっとている。

こうしたことに追い詰められた政府・公団は、ついに農地強奪のために、土地収用法という悪法をひっぱりだして強制代執行にうったえることを決断し、そのために、この秋にも十八年間もの長い間中断していた千葉県土地収用委員会を再開する動きに出てきた。

運輸大臣、石原は「二期工事は九九・九％の国民が支持しているから、多少の犠牲が出ても断固としてやるべき」と公言している。（全くウソ・デタラメだ）このような政府・公団の言う「一握りの三里塚農民は国策のために犠牲になってもしかたがない」という暴論を人民が認め、強制代執行という国家暴力に人民が見て見ぬふりをしているということは「農民殺し」に加担するに等しい犯罪行為であると言わざるを得ない。「一人は万人のために」「万人は一人のために」は労働者間だけで通用する言葉ではない。その言葉は文字通り万人の合言葉でなくてはならない。「国民のために多少の犠牲はやむを得ない」という論理の行きつく先は、三里塚で行われている人権無視、不法・不当なことが日常茶飯事になり、日本中で「国策」の名のもとに支配者が暴圧を欲しいままにするということであり、戦前型政治への回帰である。

「赤字だ、国策だ」という名のもとに、われわれ国鉄労働者にどのようなことが行われ続けてきたのかを想起してほしい。十万人の首切り強行され、二〇〇名以上が自殺という名の「死」へと追いこめられ、現在も五〇〇〇名の仲間達が清算事業団という「首切り収用所」に押しこめられているのではないか。どれもこれも「国策」「国策」のためである。

三里塚は単に三里塚にとどまるたたかいではない。三里塚の強制代執行粉砕のたたかいは全人民の人権と利害がかかったたたかいであり、絶対に勝利しなければならない。

先だって行われた二期工事促進の「世論づくり」を意図した総理府の世論調査においてでさえも、「国民の半数が代執行に反対」している通り、三里塚の正義性はいよいよ明白になってきている。

いざ十・二三三里塚へ総結集しよう。

8/29 朝日

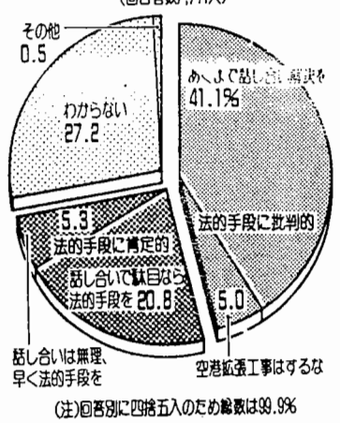
「二期工事慎重に」46％

成田空港で総理府調査 交通の便で不満も

開港十周年を迎えた成田空港（新東京国際空港）について、三人に一人が「日本の表玄関としてふさわしい」と考えている半面、六人に一人は空港までの「京国際空港に関する世論調査」で明らかになった。一方、現在進められている二期工事に関連し、いまだに根強い反対運動があることに対する今後の対応に達し、「法的手段もやむなし」などとする強硬派をかなり上回る結果が出た。

調査は今年五月、全国の二十歳以上の一万人を無作為抽出し

成田空港反対運動について
（回答者数7,711人）



（注）回答別に四捨五入のため総数は99.9%

88・8・28総理府世論調査の結果

訂正＝前号日刊十月十八日・2099号は十月十七日・2908号でした。訂正します。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！